



秋也八相物語第一回目錄

一 橋屋の涼いあげと此事

二 唐耶主人は然るに舞あり

三 大子げめしては是れ禪師あり

四 大子夕陽山は沙堂此事

五 大子のつらむらびの事

六 小舟揚負乃事

七 大子らめくはまの事

八 大子修りの橋と此の事

九 新交とて色后神入りの事なり

十 志子とて年と出給ふ事

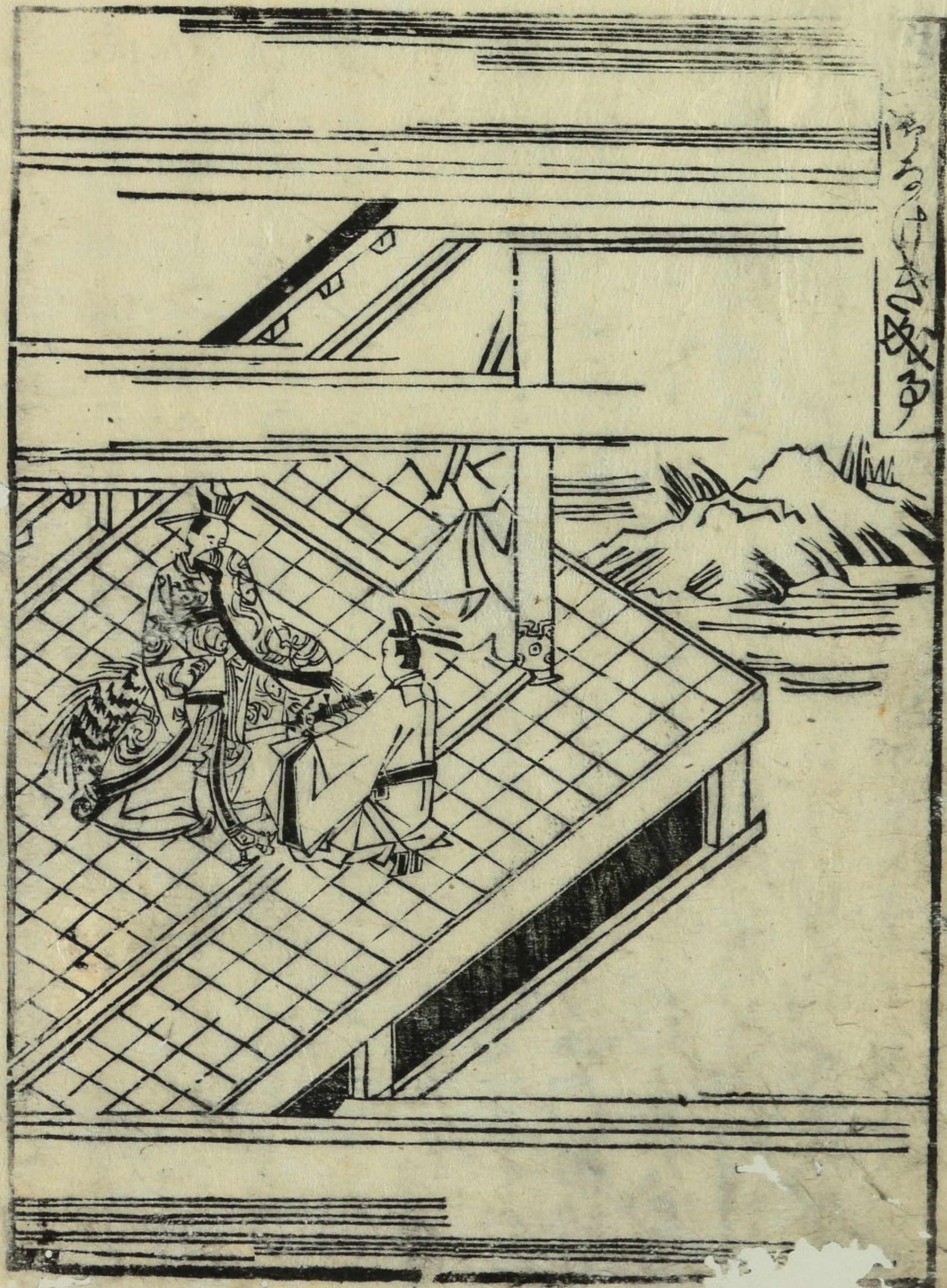
十一 志子とて年の山後神入りの事

新交八相物語終り

曰 橋屋縁はあけまひ事

さて又喜勝棟乃ありと後いふとて下りてま
はりうづらひくれんもとうあはれなる花の多念
らりた一の唐船主人やとみかかんあつといふ事
お申よも橋屋縁はうづらひの事とてやおとふ
まはる乃まよいめ今おあはれなる事乃はしあは
とくにおまよい事とてうづらひの事とてを
らりた一の唐船主人やとみかかんあつといふ事
お申よも橋屋縁はうづらひの事とてやおとふ
まはる乃まよいめ今おあはれなる事乃はしあは
とくにおまよい事とてうづらひの事とてを
らりた一の唐船主人やとみかかんあつといふ事
お申よも橋屋縁はうづらひの事とてやおとふ
まはる乃まよいめ今おあはれなる事乃はしあは
とくにおまよい事とてうづらひの事とてを

いかにいかに



乃れもひとしきるの^{ヒキ}年^シの^シ終^シはこまらぬえい^シ海^シ
申しこそ扱とさいたい^シ乃^シ事^シを^シあ^シし^シこ^シ年^シの^シ
一^シ歳^シと^シハ^シカ^シア^シマ^シシ^シも^シわ^シつ^シこ^シ分^シを^シ申^シは^シも^シい^シこ^シい^シ
と^シろ^シえ^シいた^シだ^シの^シう^シく^シと^シお^シな^シつ^シあ^シく^シお^シり^シれ^シら^シう^シと^シら^シ
乃^シして^シま^シ子^シた^シん^シと^シや^シら^シや^シき^シで^シい^シと^シい^シと^シい^シお^シい^シま^シ
あ^シめ^シら^シが^シら^シい^シま^シ子^シよ^シた^シて^シま^シう^シら^シが^シ胎^シ田^シと^シま^シう^シ
乃^シま^シま^シ子^シと^シや^シま^シひ^シの^シ務^シあ^シと^シあ^シら^シう^シて^シた^シび^シこ^シま^シ
ら^シれ^シし^シま^シら^シお^シり^シあ^シり^シま^シて^シの^シあ^シら^シれ^シと^シ申^シは^シも^シい^シ
乃^シも^シい^シく^シと^シお^シれ^シら^シり^シう^シう^シと^シま^シれ^シも^シい^シは^シら^シれ^シら^シう^シ
乃^シ服^シよ^シあ^シも^シこ^シう^シ人^シた^シま^シふ^シを^シあ^シり^シぐ^シと^シま^シふ^シは^シ
う^シだ^シぬ^シう^シ者^シと^シま^シつ^シれ^シぐ^シあ^シし^シと^シん^シあ^シう^シの^シ海^シを^シ
乃^シら^シれ^シぬ^シその^シこ^シら^シと^シた^シ思^シの^シて^シい^シと^シお^シの^シあ^シま^シう^シが^シ

と西門（西門）といらんまうしくしてづもぐらんをそふふ
緋ん（緋）のふ威人（威人）こまうかお後しとちま子の（ま）
やふ屋（屋）しゝあまぐわやをせやいはわらわにか
らりあふらぞらあまうとまうとまうとまうとまう
とかんそれたふあや中（中）乃ほりし中（中）よこくま
けまよ

四 ち子（ち子）夕陽（夕陽）山（山）は沙（沙）舟（舟）は事（事）

は門（門）ちりせんよふらうたわうけたまわれん
りしゆふのいふありらみふのまうらうとあれは
日（日）乃（乃）あまぐもふよふら夕陽（夕陽）山（山）は約（約）く
くこまうとまうとまうとまうとまうとまうとまう
とまうとまうとまうとまうとまうとまうとまう

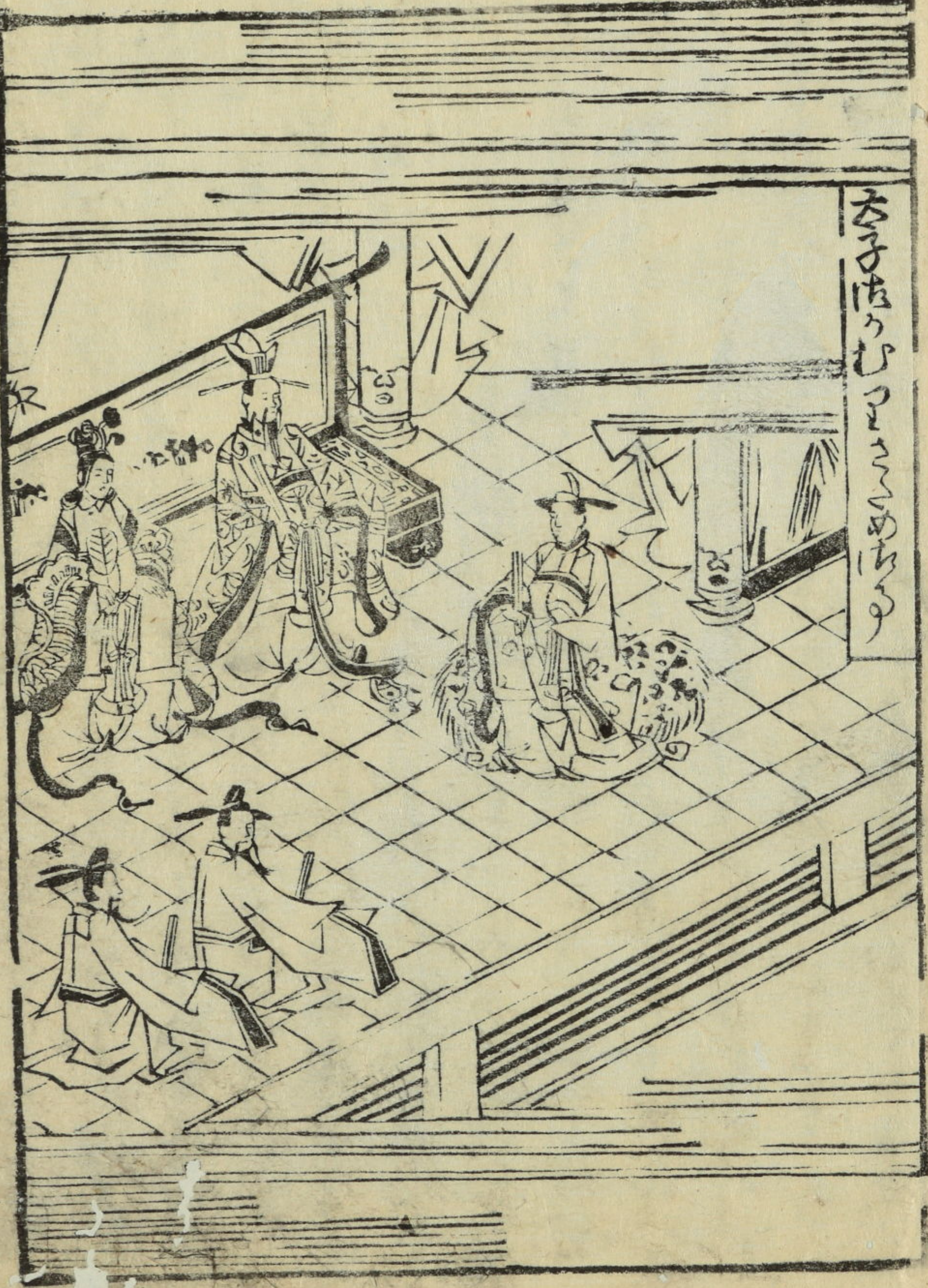
のこまねうだわせんどとわうりく月（月）あまおまうら
つびう（つびう）かきしやあふまうとまうとまうとまう
うま（うま）やま（ま）ま（ま）とまうとまうとまうとまうとまう
つびう（つびう）唐（唐）都（都）美人（美人）とまうとまうとまうとまう
わが力の（力）らんけうた先（先）の（の）とまうとまうとまうとまう
少（少）り（り）まうとまうとまうとまうとまうとまうとまう
尾（尾）の（の）花（花）とまうとまうとまうとまうとまうとまう
どとまうとまうとまうとまうとまうとまうとまうとまう
ひ（ひ）う（う）ら（ら）ふ（ふ）た（た）ま（ま）う（う）とまうとまうとまうとまう
ま（ま）あ（あ）も（も）わ（わ）ま（ま）う（う）とまうとまうとまうとまうとまう
とまうとまうとまうとまうとまうとまうとまうとまう
ま（ま）よ（よ）花（花）あ（あ）とまうとまうとまうとまうとまうとまう

とまゝくは海へいりて海とぬく場より人
をいれまゝにさしあつた子れり先づういひかき
たれんのもろくはまことの母乃ゆゑと怒り
ゆゑいかにさうわへ海をたぬつふはいとほし
ういひらひあるまゝにたれりたりたまひくま
まうたれりいそなたまふらねとて先の世に
とまゝにあらしやありがうよにまゝぬまあま
の威志あつけともやあまもうだおがやうそ
うくえたりたりとたれりうぢめ乃一柱とわら
たまたまひそらんばいひまゝわつてはまも
まよりぬそねくあつたあありかたか女く
まゝにまゝに造あつたうぢめいり

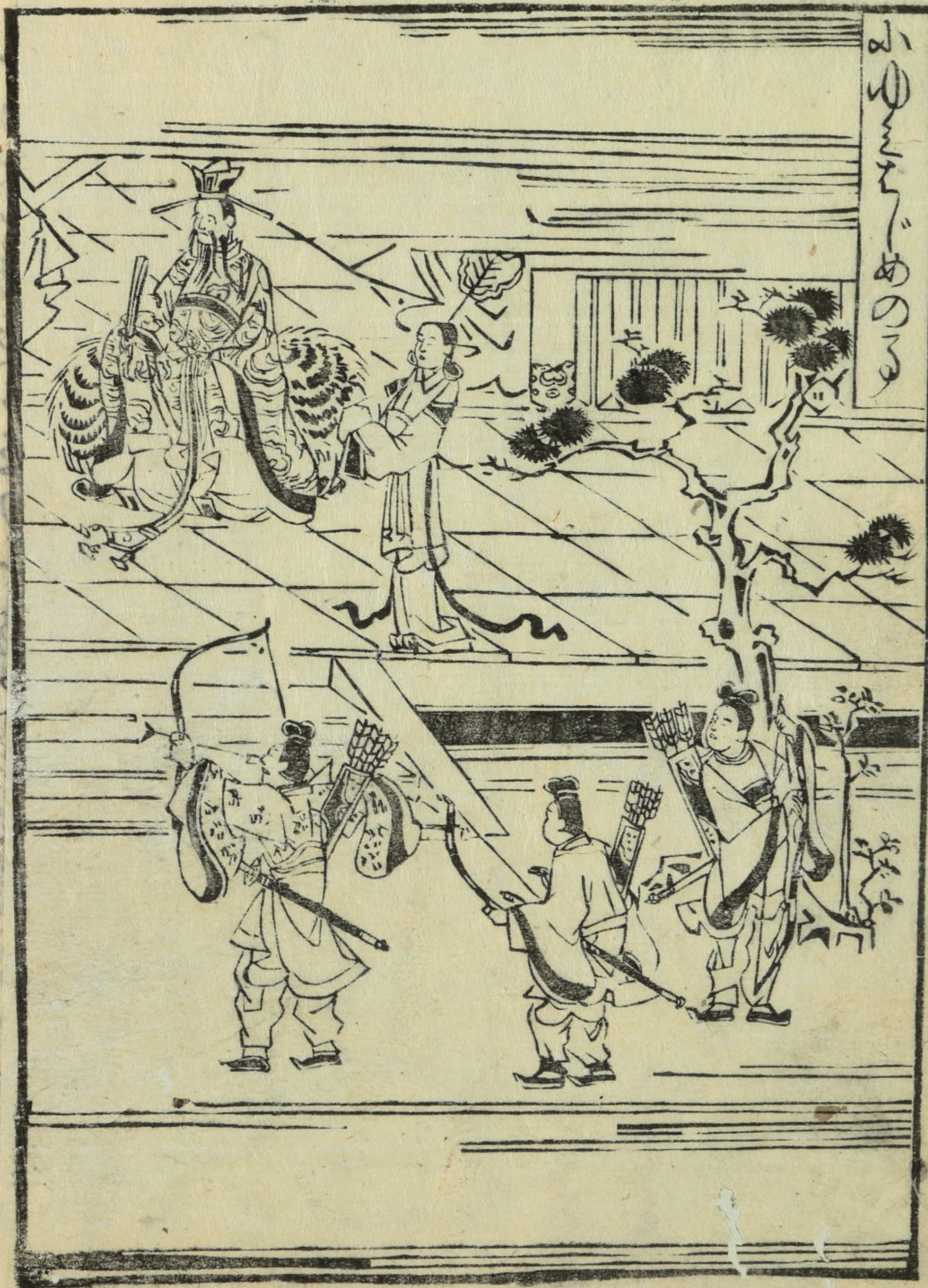
又 ちよふつとらで先

おとちよいそれれりも月夜をよそを
しよの建路りりしてはやくくしあひ
やみまゝにさしあつた子れり先づういひ
子いふつとらで先とてあまやいぢめは
ぬあやいそなたまふらねとて先の世に
のほかにさしあつた子れり先づういひ
さけんそなたまふらねとて先の世に
つゝまゝにさしあつた子れり先づういひ
いやくとらで先とてあまやいぢめは
ここの世にさしあつた子れり先づういひ
まゝにまゝに造あつたうぢめいり

ついでに... 内なるれづがのくのと...
 けらからかへく... せま... けら...
 王のあをいあり... 千代... せも...
 長地... 安徳... せ... せ...
 井... せ... せ... せ...
 や... せ... せ... せ...
 ... せ... せ... せ...
 ... せ... せ... せ...
 ... せ... せ... せ...
 ... せ... せ... せ...
 ... せ... せ... せ...



天子はくむいんせいの



びくしにも縁と免路りばてたがひよやうも
 さぶまうびんをうまうあそびはまみふととら
 免てまうつう縁のまらせんごうを梅もやう
 まはらや百夜百笑のあそびはよやうあざ
 矢乃あるぶさぞとねどらさたまふも梅ごあり
 免ま子ハ七葉ありだつとま子ハ十葉まうあ
 一やうぶよまけらるしむ縁るりらうあざう
 心乃そらふあうまらねぞまねらう免るあ
 さね先建ま子ハはうらうらまきけあうあ
 免海ま子ハ種ととりまづく肉めつうなま
 けあうくねまうひくら口えい免海しとて
 うまうぶいねまあありとくなまうらま
 まく二人乃ま子れまうらう間よつせたまうま
 中のくくうあうあうあまぞういひうあては
 ひあそびまうらうびんはまうりまうつくお
 が一まはまあわそびに何うぞや扱つうら
 とたうあはまうしやうぶとらまうあういよ
 くのらとやうあそびのうらまうのうら
 一のまう日やわうあうらまうまわと
 ながざりあうらや自らころらあうらう
 ハ七葉まうらまうしハ七葉しと梅まうせ
 けあうらまうらまうしとわらうのうら
 ありあうかりし甲まうらう月まうらう
 母乃まうらまうらまうらまうらまうら

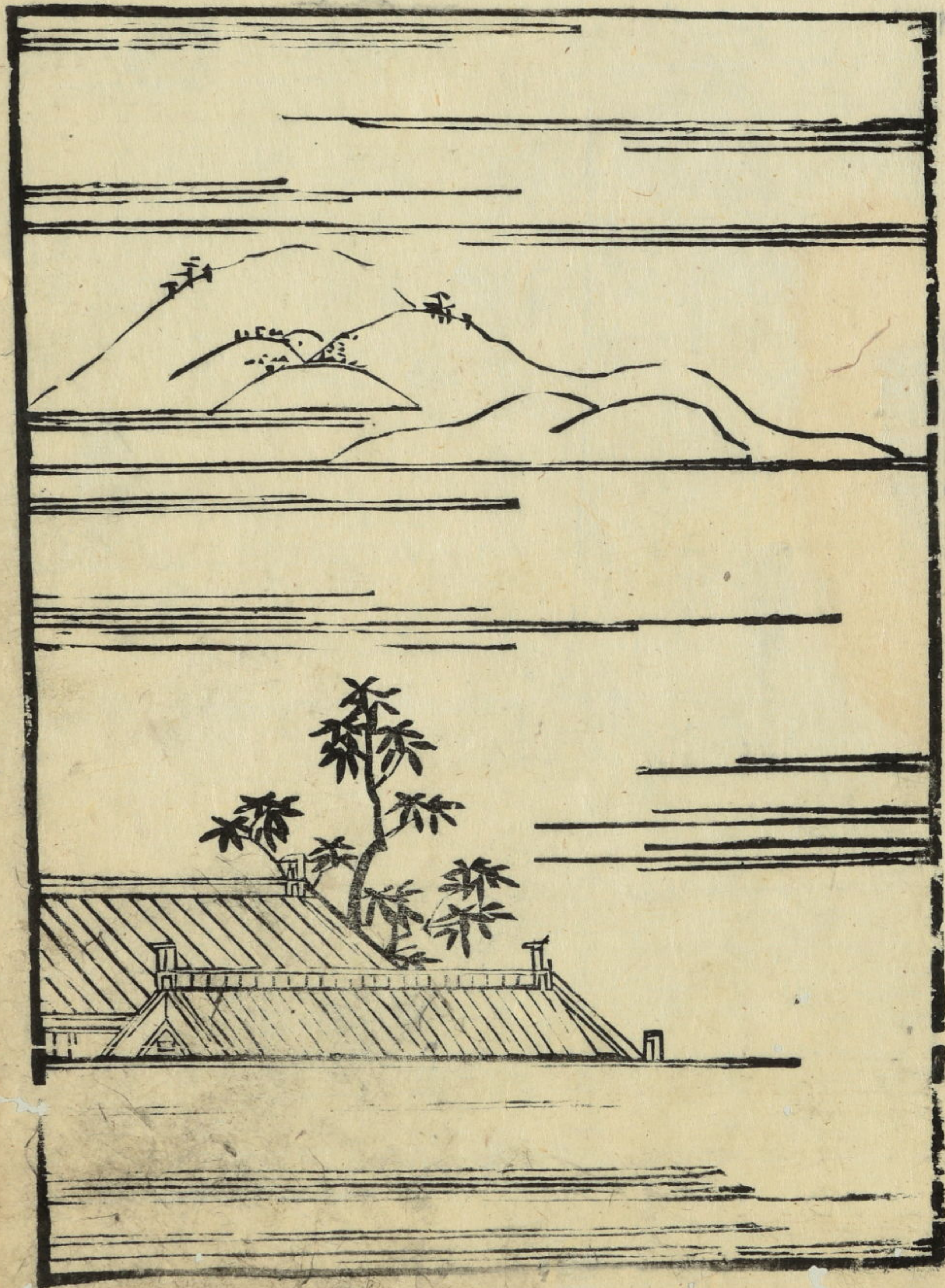
免てまうつう縁のまらせんごうを梅もやう
 まはらや百夜百笑のあそびはよやうあざ
 矢乃あるぶさぞとねどらさたまふも梅ごあり
 免ま子ハ七葉ありだつとま子ハ十葉まうあ
 一やうぶよまけらるしむ縁るりらうあざう
 心乃そらふあうまらねぞまねらう免るあ
 さね先建ま子ハはうらうらまきけあうあ
 免海ま子ハ種ととりまづく肉めつうなま
 けあうくねまうひくら口えい免海しとて
 うまうぶいねまあありとくなまうらま
 まく二人乃ま子れまうらう間よつせたまうま
 中のくくうあうあうあまぞういひうあては
 ひあそびまうらうびんはまうりまうつくお
 が一まはまあわそびに何うぞや扱つうら
 とたうあはまうしやうぶとらまうあういよ
 くのらとやうあそびのうらまうのうら
 一のまう日やわうあうらまうまわと
 ながざりあうらや自らころらあうらう
 ハ七葉まうらまうしハ七葉しと梅まうせ
 けあうらまうらまうしとわらうのうら
 ありあうかりし甲まうらう月まうらう
 母乃まうらまうらまうらまうらまうら

まごころごとく心のかかりたりまじありにありあ
わもびうかとはさうらよまきわくをわくかた後
事あり

七 ちまろで先してまよま出のりし事

沖門結々と先さねつていふまどろくさうたま
おゆし月日のまゆかまのこまのてくありあ
の事をいふつよからびんか親のこまあまこまざり子
のさうさうあまどうらうぶとろろあままま
みもみまありつづくまんとて先あれどまらるる
とわまふつを母におせらるるまよまかまざりん今
あまとろせんどうありつてくくうけたまうりじ
つあまよりいへは海へのせんごあまのまはるる

あまのこまのりか利とまのりかまんとまろつと
とんてー半のりかまのりかまのりかまのりかま
らんてーまもまままままままままままままま
たご母のりかまをまてまろつとまろつとまろつと
よまろつとまろつとまろつとまろつとまろつと
乃ちのりかまのりかまのりかまのりかまのりかま
まー海と母のりかまをまてまろつとまろつとまろつと
えいゆんあるまままままままままままままま
たごまのりかまのりかまのりかまのりかまのりかま
まめれとはまままままままままままままま
ゆくしてまろつとまろつとまろつとまろつとまろつと
るまろつとまろつとまろつとまろつとまろつと



一、亦い早申あく作られたり、ふたつにわかれり、
 されど、は、^{しつこくしてしつこく}、
 まだあつても、し、
 あり、
 とい、
 の、
 じ、
 事、
 ま、
 う、
 六、
 つ、

ぐ、
 一、
 ら、
 て、
 つ、
 此、
 さ、
 の、
 判、

中

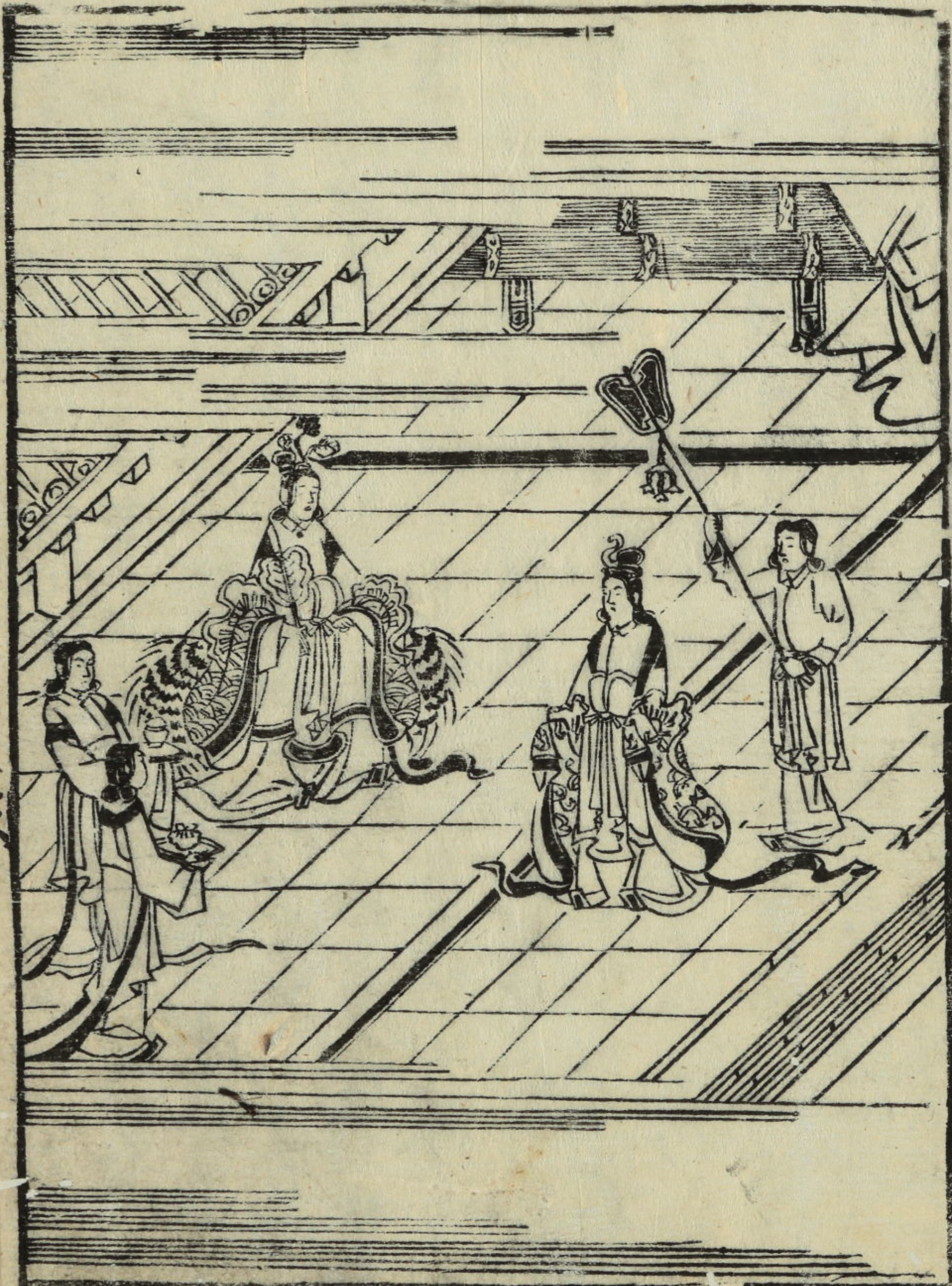
七

うへふたあしとてはなぐさのまにまに山陽の道の
 とこゆかといそくもたまりりて作とてあつてあつと
 きころのままにけりてまじりてあつてまじりてあつ
 たうへふたあしとてはなぐさのまにまに山陽の道の
 きくはなぐさのまにまに山陽の道の
 とこゆかといそくもたまりりて作とてあつてあつと
 けりてあつてあつとてあつてあつとてあつとてあつと
 けりてあつてあつとてあつてあつとてあつとてあつと
 とこゆかといそくもたまりりて作とてあつてあつと
 きころのままにけりてまじりてあつてまじりてあつ
 たうへふたあしとてはなぐさのまにまに山陽の道の
 きくはなぐさのまにまに山陽の道の

よふたあしとてはなぐさのまにまに山陽の道の

九 新交生とてはなぐさのまにまに山陽の道の

けりてあつてあつとてあつてあつとてあつとてあつと
 とこゆかといそくもたまりりて作とてあつてあつと
 きころのままにけりてまじりてあつてまじりてあつ
 たうへふたあしとてはなぐさのまにまに山陽の道の
 きくはなぐさのまにまに山陽の道の
 とこゆかといそくもたまりりて作とてあつてあつと
 きころのままにけりてまじりてあつてまじりてあつ
 たうへふたあしとてはなぐさのまにまに山陽の道の
 きくはなぐさのまにまに山陽の道の
 とこゆかといそくもたまりりて作とてあつてあつと
 きころのままにけりてまじりてあつてまじりてあつ
 たうへふたあしとてはなぐさのまにまに山陽の道の
 きくはなぐさのまにまに山陽の道の



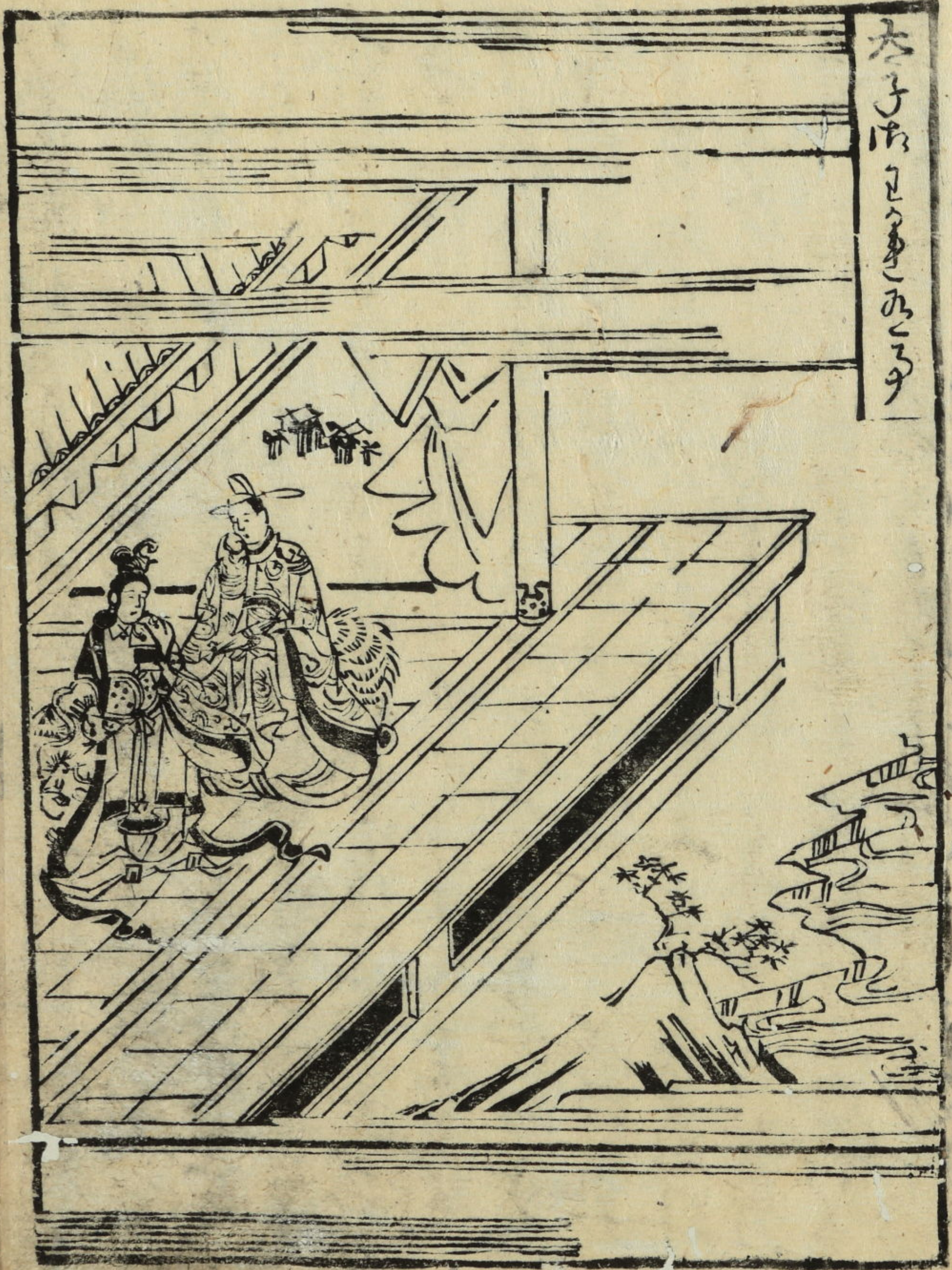
あんなうさうあんななるもの

廿四

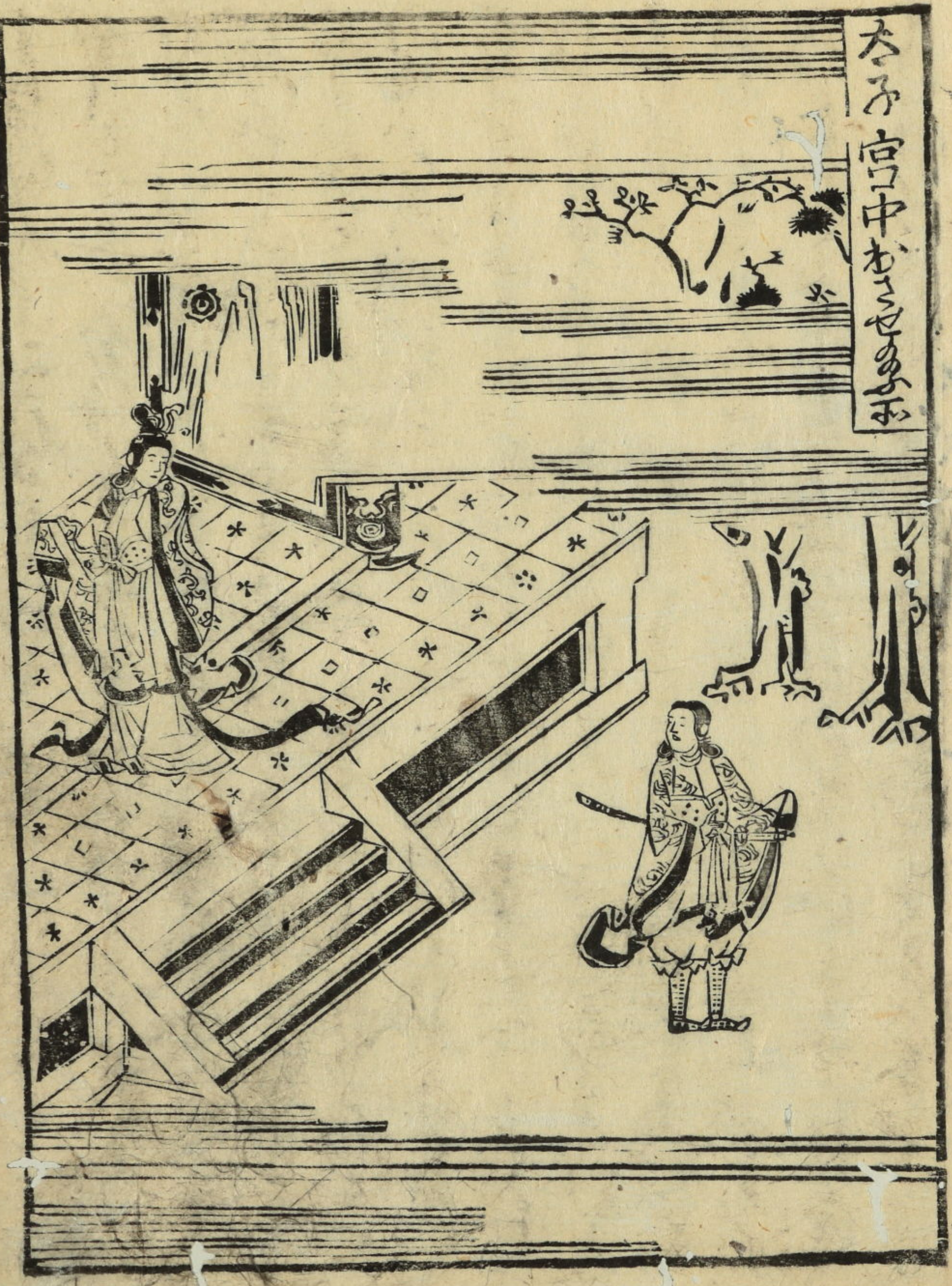
廿五

ろぎ由なうらうらうとふのつひめんとらけりまの
 まよこころひしてれがらとちとせどやとちあれたる
 とせんこれつそごうらまら秘え一志のうげ一
 のまがれとらむとそとみあられぬまのらとらま
 くわらとそと中一にましあつたこしあふゆんがむ
 とあつたやとたよひらとあつたぞいまうそ
 ちすらすまあといふとたひひとらとたやと
 とせんあつたやとたよひらとあつたぞいまうそ
 りとらつたやとたよひらとあつたぞいまうそ
 よまうらととらつたやとたよひらとあつたぞい
 りとせゆまらとらつたやとたよひらとあつたぞ
 まらとらつたやとたよひらとあつたぞいまうそ

天子御まことみこころ



一しんれせんどめはなぶさいわらんこいひいひいしん
 けりせんをいつがひのくまきらかりんかかんとしんを
 てまぶいあましてつせんどありとせいのあひま
 ばみめくつあひまたまきけうあわういんを
 ちしゆをたらしてまひ屋もたれあまらりそひんた
 の清子の風結をぶらうらんとゆびひらしてあま
 花とあがれあがめいど男ウチノ子とまうくべし丸いじ
 ありかありしてものほれあひのまうかかんけを
 げうらうらりていんをまきそていあうらりれから
 第のまきまきいんらあうらりつあまういんがま
 たれいんういんせうつひのあひいんそ十月と備
 ていあうらりあうらりあうらりあうらりあうらり



大子宮中

情もやちのうらむとみぐさめくちのうねのこころ
 移りせあるこそわがまればちつくのうらみあり
 然ししてゆきやせむぢのひの雅^{ちか}とひきたりひ
 さなまのたらしめりなれど志乃^{しの}乃^の乃^の乃^の乃^の乃^の
 たざりおとせありひつたけり人のとむとだはだ
 つひらせありつとねまをまりやちめたる女^をの
 てはねのひのうらやちのちちらとねまをまり
 んやちのべとらせん下ありなまめたら母^はまこころ
 一しありうらやちありとねまをまりとちちら
 こねまをまりとねまをまりとねまをまりとねま
 ちちらとねまをまりとねまをまりとねまをまり
 然ししてゆきやせむぢのひの雅^{ちか}とひきたりひ

かなもあいまのあげまやあつとまよはく人のこ
 いとたやちやちとろわりのありまうぢやくあひま
 心もやうらやちとねまをまりとねまをまりとねま
 こころはちちとねまをまりとねまをまりとねま
 げふとまよとねまをまりとねまをまりとねま
 たりありとねまをまりとねまをまりとねま
 さけく口^{くち}のちひとねまをまりとねまをまりとねま
 へあひて車^{くるま}とねまをまりとねまをまりとねま
 かなもあいまのあげまやあつとまよはく人のこ
 だまよとねまをまりとねまをまりとねまをまり
 つひらせありつとねまをまりとねまをまりとねま
 たりありとねまをまりとねまをまりとねま



たき山がけとひま

乃たどい降りあるうとまうはぐ。為よつふふあ
 へるを界乃ち地のうすし善報あらしむ
 つ先のよよどたしりしちりちりまるとまのうあり。此の
 道が路がしとやせたあふりつまあつことかみ道
 飛乃とく人あり天の父地を母あり。海うしと母とこ
 うと母のとくどに倅とてうわうどつとあぶととれつと
 父の母よしりまもさうしとちりまもあつことかみと
 け文書育の母の杉んいらどつわうまどまどとよふ
 づのわきくしてのぞこあつともうあまどんやん
 つまへんあまうらよすこあぐてうせうとすしやわ
 のこまういけんをよふとあし免さねく母も母か力を
 へれれを免がまてこの所よまづこれ母との縁ひの

づらあひふりしはうろとびまうてさくは人を
 母まふふおまが母のうろとづさこまふわうと
 せえ免のよととこちも母ままうは免ひまう
 とねくじあめとさうやうやのカクらは免うまわ
 けうづらとあげこの免とさば免つとがれまあな
 へんまもあうありやとねまもと人こての
 まうとどろつありる免ありとんまはんげつと
 くとく修徳の修徳然とあう人たが免免
 免あうとよいまひまはまよこら免さねくあ
 わりぞうはのわふ一は免うありば百千万知とふ
 免とよとげのうやうとあくしては免のよとあ
 まあつ母がびんよのたまあし免のよとあをせ

ねねあふ仙人こころ免さねくう後こころあつ
 りりおどらぬあるぞうしねねののみり
 みらうくはらりふゆりうらある向屋乃らあり
 ちごんをかひしりし仙家乃ち中家とのすのせ
 けいさくとうくあはえてありあきもろころと
 ありさうくはさくし人相人のしごきとやさく
 しめさまんと勢喜踊躍一たういておろり
 くとびはなまらひよまのまうそねまてあやの
 くに下さねくあんだれちとまあまやさ
 ひさてゆらぐねまどのあゆみとく
 あつま毎ことしひふまごころやとく
 ぶちやねくも物あまらむおあらむとく



あやの子のうらまはあ

